

二、日韓保護協約及韓國併合條約締結ト第三國ニ對スル通告及宣言  
(一)前記(3)明治三十八年十一月ノ日韓(保護)協約締結ニ際シテハ  
帝國政府ハ同十一月二十三日在英、米、獨、佛、奧、伊、清、  
白、丁ノ九公使ニ訓令シ協約文寫ニ一宣言(別紙第三附録)ヲ  
添附シ之ヲ各任國政府ニ通告セシメタルカ、右宣言ニ於テ帝國  
政府ハ從來第三國カ韓國ト締結セル諸條約ヲ尊重シ且韓國ニ於  
ケル第三國ノ正當ナル商工業上ノ利益ヲ侵害セサルヘキ旨ヲ明  
ニシタリ、  
尙右ノ中米國政府ニ對スル通告ヲナスニ當リテハ同國政府カ他  
ニ卒先シテ其ノ在韓公使館ヲ撤退スルコトヲ希望スル旨口頭ヲ  
以テ申入レタルカ、右ハ日韓(保護)協約ノ文面ニ依レハ或ハ

五

韓國外交ハ統監ニ於テ在東京外務省ノ指揮監督ヲ受ケ依然京城  
ニテ之ヲ行フモノナルカノ解釋ヲ生スル惧アルモ其ノ實際ノ趣  
旨トスル所ハ

(イ)爾今韓國ノ外交事務ハ協約第一條ニヨリ東京外務省ニ於テ關  
係列國政府又ハ其在京代表者ト直接ニ之ヲ行フヘク

(ロ)在韓國第三國領事トノ交渉其他韓國ト第三國トノ條約實行ニ  
關スル地方的事務ハ協約第三條ニヨリ統監ニ於テ日本理事官  
及韓國官憲ヲ指揮監督シ之ヲ行フヘク

(ハ)從テ本協約ノ結果トシテ在京城各國公使館ハ撤退スルノ外ナ  
キコトトナルヘシ

ト云フニ在ルヲ以テ先ツ米國政府ヲシテ公使館撤廢ノ先鞭ヲ付

六

ケシメ以テ他ノ各國ニ於テモ漸次同様ノ措置ニ出ツル様取計ヒタルモノナリ。

(二)前記(8)韓國併合條約締結ニ際シテハ關係諸國駐在ノ帝國外交使節ヲシテ條約文寫ニ宣言ヲ附シテ各任國政府ニ通告セシムルト共ニ帝國外務大臣ヨリモ在京關係國代表者ニ對シ條約文寫並ニ宣言ヲ添附シタル公文ヲ以テ通告スルノ手續ヲ採リタルカ(但ペルーニ對シテハ後者ノ手續ヲ採ラス、又希臘及「コロンビア」ニ對シテハ帝國外務大臣ヨリ直接兩國外務大臣宛公文ヲ發送セリ、蓋シ之等ノ國ハ我國駐在ノ外交使節ヲ有セザリシニ由ル)右公文並ニ宣言ハ二種類ニ分レ

(1)日本ノ條約國ニシテ且韓國ト條約關係ニアリタル九ヶ國即獨

七

米、埃、白、清、丁、佛、英、伊ノ各國並ニ露國(韓國ニ對シテハ無條約國ナルモ「ポーツマス」條約第二條等ニヨリ韓國ニ於テ最惠國ノ待遇ヲ享クル關係上韓國トノ條約國ト同様ニ取扱ヒタル次第ナリ)ニ對スル公文ニ於テハ韓國併合條約締結セラレタル旨並ニ同條約施行ノ後ハ帝國政府ハ添附ノ宣言書所掲ノ方針ニ依リ韓國ノ施政ヲ爲スヘキ旨ヲ述ヘ該宣言ニ於テハ

(a)韓國ト列國トノ條約ハ當然無効ニ歸シ日本ト列國トノ現行條約ハ其ノ適用シ得ル限り朝鮮ニ適用セラルヘク又朝鮮ニ在留スル諸外國人ハ日本法權ノ下ニ於テ事情ノ許ス限り日本内地ニ於ケルト同一ノ權利及特典ヲ享有シ且ソノ適法ナ

八

ル既得權ノ保護ヲ受クルコト

(b) 現行ノ輸出入税及噸税ヲ十年間据置クヘキコト、又日本朝鮮間ノ移出入貨物ニ對シテモ十年間外國貨物ニ對スルト同一ノ課税ヲナスヘキコト

(c) 十年間日本トノ條約國ノ船舶ニ對シ朝鮮開港間及日鮮開港間ノ沿岸貿易ニ從事スルヲ許スコト

(d) 從來ノ開港場ハ馬山浦ヲ除クノ外舊ニ依リ存置シ更ニ新義州ヲモ開港場トスルコト

ヲ明ニシタリ(公文案日英文並宣言文日英文別紙第八附錄其一參照)

(四) 日本ノ條約國ナルモ韓國ト條約關係存セサリシ諸國即アルゼ

ンジン、ネリ、ヨロンビア、ペルー、伯、西、希、墨、諸國、葡、暹羅、瑞典、瑞西ノ十四ヶ國ニ對スル公文ニ於テハ(但「ペルー」ニ對シテハ帝國外務大臣ヨリノ公文ヲ送達セサリシコト上述ノ通)韓國併合條約締結セラレタル旨並ニ帝國ト之等諸國トノ條約ハ添付ノ宣言書所掲ノ通今後適用シ得ル限リ朝鮮ニ適用セラルヘキ旨ヲ述ヘ該宣言ニ於テ爾今日本國ト列國トノ現行條約ハ其ノ適用シ得ル限リ朝鮮ニ適用セラルヘク、該現行條約ヲ有スル列國ノ臣民ハ朝鮮ニ於テ事情ノ許ス限リ日本内地ニ於ケルト同一ノ權利及特典ヲ享有スヘキ旨ヲ明ニセリ(公文案日英文並宣言文日英文別紙第八附錄其二參照)